

TNC
通信2020
7月号

記念の「第25回定期総会」を開催！

「第25回定期総会」が6月28日午後2時から町上会館で15名が参加して開催されました。中山会長は「会員の皆さんの尽力で25周年を迎える事ができ、感謝いたします」とあいさつ。次に25周年を記念して代表5名(安住稔幸さん、板垣美代子さん、菊地紅子さん、小出ますみさん、齋藤睦さん)に感謝状が贈られました。



このあと小野寺理事を議長に、2019年度の活動報告と決算報告を横山事務局長から、また監査報告が奥山監事からあり、いずれも了承されました。また水戸理事長から2020年度の活動計画(案)と予算(案)が提案され了承されました。役員人事では中山会長以下、全員の留任と新理事に浅野直子さんを選出。松田副会長から「30周年を目指し、これからも中国との友好と理解を深めていく活動に力を合わせていきたい」と挨拶があり閉会となりました。なお総会には丹羽宇一郎・全国協会会長＝別項、若生裕俊・富谷市長からメッセージが寄せられました。



私の友好記憶 「出会い・縁…」 ①

“祖父母の事” 横山 弥生

私の故郷は長野県檜川村。藤村の『夜明け前』に「東の外れ桜沢」という記述があり、そこが生家です。小さい頃から中国の写真を見たり、祖父母から中国の話の聞いたりして育ちました。祖父は養蚕関係の仕事だったので無錫、嘉興、上海等に転勤しました。家には男の子3人、女の子1人で、中国人のお手伝いさんがいて、家事を全てしたそうです。

祖母が日本に引き揚げる時の話をしてくれました。「天津近くの葫蘆島から引き揚げが決まったとき、前の引き揚げ船は沈没させられた。これから乗る船が攻撃されると分かたら、4人の子供のうちどの子から先に捨てようか、お腹にはもう一人子供もいた。結局、攻撃された時はもうだめだから、皆で死ぬ」と。祖父はまだ中国に残り、祖母と子供達だけで乗船したそうです。

幸い無事、日本に着きました。その後祖父も帰国でき、家族全員で暮らすことができるようになりました。もしあの時、祖母が子供を捨て、また船が攻撃されていたら、私はこの世に存在しなかったのだと思いました。そしてこの時から平和について、中国について考えることになりました。

長野県は旧満州に渡る人が多かったのですが、母方の祖父は農家の長男でしたが、国策により旧満州で教師をしていたそうです。終戦となっても一向に便りが無く、祖母は祖父がどんなに苦しい思いをしているかと考え、祖父に会えるまでは肉を口にしないと決めたそうです。結局、祖父は帰ることはなく、ある日、県から届いた一枚の葉書で、この世を去ったことになりました。祖母は女手一つで4人の子を育て農家を守り、92歳でこの世を去るまで肉を口にすることはありませんでした。平成15年、祖母の葬儀の折、祖父が亡くなったのが吉林省渾春市付近だった事を私は知りました。

富谷市日中友好協会の皆様へ

貴協会第25回定期総会が盛会に開催されますこと心からお祝い申し上げます。



2020年早々、新型コロナウイルスの流行・拡大により日中両国国民は大きな苦難に遭いました。日中関係は、あらゆる交流が止まり、大きな影響を受けています。一日も早く交流が再開される状況になることを切に願っています。

中国への義援金の募金活動には多くの協会の皆様のご尽力をいただき、全国で約一千万円のご協力をいただき、中国の関係機関にお渡しをいたしました。また、互いにマスクや医療物資の支援活動を行い、友好の精神を発揚しました。新型コロナウイルスの流行も収束になりつつあります。

今年の秋、私共日中友好協会は、創立70周年を迎えます。皆様とともに日中関係の促進のため引き続き尽力してまいります。

第25回定期総会にご出席の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念申し上げます。

2020年6月28日

(公社)日本中国友好協会
会長 丹羽 宇一郎

2021年の「友好手帳」

(公社)日本中国友好協会では明年の「友好手帳」の予約申し込みを行っております。黒・赤色各800円。申し込みは富谷・横山事務局長まで。